

令和 8 年度 重点目標・達成指標と重点的取組・取組指標と学校関係者評価(第 1 回) 実施日 7月 【九重町立東飯田小学校】

【教育目標】

いっしょに学ぼう いっしょに話そう いっしょに考えよう

【育成を目指す資質・能力】

○ 主体的に学ぶ力

○ 読解力

○

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	評価者からの意見
知識及び技能の習得	基礎基本の知識と技能をもとにした課題解決能力の育成	学校 ○個に応じた少人数指導の実施 ○ドリルタイムの複数指導の実施	○全教職員での算数・国語の単元末に個に応じた少人数指導を実施する。習熟度別・意欲別で課題を選択させる 肯定的評価 5 0 % ○全教職員で週 2 回のドリルタイムの指導を行う。 肯定的評価 1 0 0 %	○漢字の読み書きに課題がある。漢字に興味関心を持てるよう、パズル化する、ゲーム化するなどの工夫が必要。 ○算数は少人数指導が不十分だったので、単元末の少人数指導を徹底する。 ○学んだ漢字を書いて使う機会を増やす。
		家庭 ○家族読書の推進 ○静かな家庭学習時間の設定	○学期に 1 回ノーメディアデーを設定し、長期休業中の家族読書を行う	※ノーメディアデーは未実施。家族読書は夏休みの宿題になっているので、この欄の数値での評価はまだ出せません。 ○子どもの取り組む課題を考えると、カラー印刷のほうが興味ややる気を引き出せるように感じました。 ○読書は心の栄養。本をたくさん読んで心を育ていきましょう。家族読書は大いに推進します。 ○家族読書を夏休み期間に行うことで、各家庭で計画的に取り組みやすくなったのではないかと思います。また、子どもたちだけのお留守番が増える時期なので、メディアについて見直したり、子どもたちと話をするのはいい機会になります。
		地域 ○放課後チャレンジ教室での知識・技能習得	○公民館行事の放課後チャレンジ教室や育成協主催の行事等で体験や工作、地域学習を実施する	○放課後の公民館では、たくさんの活動を行っていて、多くの小学生の学びの場となっている様子がうかがえます。育成協の地域の方や保護者の方の協力に感謝です。 ○素晴らしい取り組みですが、「放課後チャレンジ教室」の児童の参加は希望制なのでしょうか？また、行う内容によって参加したりしなかったりがあるのでしょうか？参加が一部児童に偏りなくできていればよいと思います。 ○放課後チャレンジ教室や子ども料理教室を通して工作体験や年中行事等の学習を行い、学年が上がるほどにより学習が身についていると感じている。 ○何かを作成する最中、やり方をよく理解できないみたいで、不安な表情をするときがありますが、少しエスコートしてあげると安心した様子です。こちらも安心します。
思考力、判断力、表現力の育成	自ら考え、深め、相手・目的意識を持ち表現する力の育成	学校 ○国語の「読むこと」の単元で言語活動を取り入れる。	○物語や説明文をもとに、紹介カードづくりやリーフレットづくりなどの言語活動を取り入れる。 肯定的評価 3 3 . 3 % YOMIURI ワークシートを活用して、読み取りの課題に取り組む。 肯定的評価 5 0 %	○様々な発表形態を活かし、目的意識をつける。 ○短時間でできる成果物に取り組ませる。(レポート、カード、新聞、紙芝居、カルタ、動画、など) ○YOMIURI ワークシートは児童の実態に合わせて難易度を合わせる。
		家庭 ○音読への意欲の向上	○保護者は、週 1 回以上子どもの音読に向き合って聞く時間を持つ。 肯定的評価 9 2 . 3 %	○宿題として音読があるので、できるだけ聞いている家庭が多いと思います。家族読書で夏休みに読んだ数を記載するようにしましたが、学校でもたくさん読んでいる人の数など紹介すると子どもたちの意識が上がるのかなと思いました。家庭の音読だけでは、なかなか意欲向上までは難しい所もあるかなと。。。 ○親も日々忙しい中に、親子の時間として音読タイムはとても大事なものと考えます。子どもの心を受け入れていく、こどもの今の状態を把握できることも大きいですね。幼児期からの読み聞かせが基本となっていくますね。 ○おおむねできていると感じます。学年が上がるにつれて「音読聴いて」のお誘いが少なくなる印象なので、こちらから「音読した？」の声掛けを心がけています。
		地域 ○公民館活動での、児童の承認・認知の実施	○公民館や育成協の活動で、スタッフから承認・認知の声掛けを行う	○児童は楽しみに活動の日を迎えていると思いますが、育成協の方たちの準備は大変だと思います。活動の場に行ったことがないので、取り組んでいる児童のことは分かりませんが、「感謝」を忘れずに参加していてほしいです。地域の方と活動を共にしたり、先生以外の大人から指導を受ける機会は貴重だと思います。 ○放課後チャレンジ教室の活動で一生懸命取り組む姿勢やできなかったことができたときなどにスタッフから声掛けを行っている。また、育成協や子ども料理教室でも率先して行動できたり、協力していく姿勢に対しても同様に声掛けを行っている。 ○子どもたちには何事も自信を持って動いてもらえる態勢を作っていきたいと思っています。
学びに向かう力、人間性等の涵養	自主的に行動し、他者との協働を図る態度の育成	学校 ○児童を主体とした授業改善 ○自主学習の実施 1 ～ 3 年はプリント自主選択とする	○学期に 2 回程度協調学習に取り組む（1 年生は除く） 肯定的評価 6 2 . 5 % 2 週間に 1 回以上自主学習を取り入れる 肯定的評価 6 2 . 5 %	○「協調学習」＝「ジグソー法」ととらえていたため、実施が難しかった面がある。子ども同士が対話する中で深め合い、課題解決につながる授業として 2 学期は取り組む。 ○低学年はプリントの自主選択の定着ができなかった。2 学期も継続して取り組み、定着を図る。
		家庭 ○家庭での学習習慣を定着させる	○月に 1 回以上子どもの自主学習と一緒に取り組む 肯定的評価 7 6 . 9 %	○内容を一緒に考えたりもしますが、校内に掲示されているのを見ると、個人差が大きいんだらうなと感じます。保護者にも一度取り組み内容を紹介していただけると一緒に取り組みやすくなりそうです。 ○学ぶという姿勢を持って進んでほしい。親は子供の自主学習と一緒に取り組むことが大事です。家庭学習の定着で学力向上につながります。声掛け、褒め育て。 ○姉妹間で差があり、上の子は一緒に取り組めておらず、下の子は大体できています。こちらから自主学習についても声掛けをしていきます。自主学習は題材に悩むこともあるようですが、その子の「好き」や「興味ある」ことを追及したり独自にまとめたり、とてもいい取り組みだと感じています。
		地域 ○公民館活動で児童の主体的な活動の場を作る	○公民館行事や育成協の取り組みの中で、活動内容を子どもとともに考える機会を設ける	○公民館と学校職員の連携も必要だと思います。両者とも取り組みが負担にならないように、調整もして行ってほしいです。 ○6 年生を対象とした、4 月と 7 月の育成協の一泊研修を行いました。その中で、7 月の研修の中で前回よりも子どもたちの自主性や協調性が育まれていると感じています。 ○地元地域についていろんなところを認知してもらい、自分の生まれたところを自慢できる環境づくりが必要だと思う。
働き方改革の推進	持続可能な職場での働き造着の創出	学校 ○毎月 1 日分以上年休を取得する	○月末に翌月の計画年休を設定する。 実施率 1 0 0 % 取得率 3 9 . 4 %	
		○定時退庁日を設定する	○毎週金曜日をノー残業デーとする 実施率 1 0 0 % 肯定的評価 9 2 . 8 %	